

2025年5月16日

船舶投融资業務をAIで支援 シップパートナーズ、中国銀行が資本参加



(左から) 簀戸氏、福富氏、金氏

シップパートナーズ（東京都中央区）は、このほど中国銀行（岡山市北区）と資本提携を行った。船舶投融资へのAIの活用を目指しており、船舶投融资業務をデジタルで支援する船価・船舶投融资分析サイト「ShipValue.jp」、用船データベースサイト「Chartering.jp」、船舶融資ポータルサイト「ShipFinance.jp」のプロトタイプをリリースした。

シップパートナーズはギリシャ系英国船主ヘリコン・ SHIPPINGの日本法人として2023年1月に発足。設立メンバーは丸紅出身の福富傑氏、丸紅と香港船社パシフィック・ベイスン出身の簀戸健作氏、韓国のサムスン重工業出身の金正賢氏で、3氏もパートナーとして共同出資している。

■サービスを無料公開

船価・船舶投融资分析サイト「ShipValue.jp」では、世界中の船舶の詳細を無料で検索できる。バルカーとMR型プロダクトタンカーについては船価鑑定を行い、船価鑑定書の取得することが可能。アナリストが調査し再確認した署名付き鑑定書も有料で発行する。さらに、検索した船舶を購入した場合の、キャッシュフローや売船益の獲得確率などを無料で自動計算する機能を備える。また、当該船舶に融資を行った際の採算・リスクコスト計算や担保価値がマーケ

ットバリューを下回る確率なども算出することができる。

用船データベースサイト「Chartering.jp」は、定期用船契約の各条項の複数のサンプルを無料で提供し、注意すべきポイントを明示することで、国内船主の用船契約交渉のサポートとなることを目指している。また、除外貨物条項や就航区域条項の作成に参考となる各種ドライバルクカーゴをまとめたデータベースや、各国の主要な港や主要輸出入貨物のデータベースも一部公開している。

船舶融資ポータルサイト「ShipFinance.jp」は、金融機関向けに船舶融資に必要なリスク分析、数値計算、契約書作成などの様々な業務をAIで自動化するサービスを提供する。

「ShipFinance.jp」は開発と運営に多くの設備投資と人件費が必要なため有料となるが、「ShipValue.jp」と「Chartering.jp」は今後も無料で公開を続ける方針だ。

簀戸氏は「DX事業は利益を追求する事業ではなく、できるだけ無料で公開することで皆様のお役に立てる機会が少しでも多くあれば、それが海運業界にとって良いと考えている」と話す。

■パートナーシップでDX推進

シップパートナーズは、これまで船主のヘリコン・ SHIPPING、船社のセンチュリオン・バルク、金融機関の中国銀行とパートナーシップを結んできた。AI開発を進めてきた元サムスン重工業・自律運航船プロジェクトリーダーの金氏は「点と点が繋がれば、線になり面になり立体となる。1社で行えるDXの範囲は非常に限られるが、複数社でチームとなれば、DXの推進が可能になる」と話す。福富氏も「DXの推進にはより多くのパートナーが必要と考えており、造船所、商社、ブローカー、ローファーム、大学などとのさらなるパートナーシップの構築も検討していきたい」と語った。

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.